

### アメリカ移民の話 1

粕屋町の歴史資料館で『父と

子 日米に別れて生きた九十年』

(一九九一年)という本があること

を教えられました。著者は名古屋

在住の安河内隆介氏。そこに書かれ

ていたことは初めて知ることが多く、

今まで語られていなかったのがむし

る驚きでした。

〈子〉は著者の隆介氏、〈父〉はア

メリカに移住し「コシヨウ王」と言

われた安河内喜三氏です(以下敬称

略)。内容は

1 父喜三波乱の生涯

2 喜三の日記から

3 思い出の人々

4 結語

から成っています。「思い出の人々」

には上須恵出身で、福岡県知事も

務めた安河内麻吉(広報すえまち、

359号、一九九七年六月、で取り

上げたことがあります)が伯父とし

て出てきます。また玄洋社を代表す

る人物、頭山満も親戚として取り上

げられています。それだけでも私に

は貴重な証言でした。まずは同書を

ひもといてみましょう。

喜三は明治六年(一八六七)十月、

父原田藤次、母モンの三男として新

原村(後に須恵町大字新原)で生ま

れました。長兄が一郎、次兄が龍太

郎、弟が真太郎、妹がカイです。龍

太郎は陸軍士官学校在学中に病死し

ました。

明治三十九年(一九〇六)喜三・

真太郎兄弟は太平洋を超えてサンフ

ランシスコに入港しました。ところ

がそのわずか十日前にサンフランシ

スコは大震災に見舞われていまし

た。マグニチュード七・八の大地震

と引き続く火災で、サンフランシス

コでは三千人が死亡し、二二万五千

人が家を失ったと言われます。喜三

らは壊滅したサンフランシスコを避

け、オークランドに上陸しました。

オークランドは金門橋(ゴールド

ンゲートブリッジ)を潜った内海に

あり、サンフランシスコの対岸に位

置しています。

この年の二年前に日露戦争が開始

され、翌三十八年にはアメリカの

ポーツマスで日露の講和条約が締結

されました。サンフランシスコには

当時日本人七千人が居住していたと

され、日本政府は大震災への見舞金

として五〇万円を、他に邦人に対し

五万円を贈っています。この頃、増

える日本人移民に対する反発から排

日運動が盛り上がっていました。明

治三十九年十月には公立学校から日

本人児童を隔離する動きも起きてい

ます。

『父と子』には、当時の様子が次

のように書かれています。

「この震災で家を失った日本人たち

は潮の引くようにサンフランシスコ

から南下、リバサイド、インペリア

ル高原、サンディエゴ、ロスアンゼ

ルスなどに散らばっていった。」

NHK大河ドラマ『山河燃ゆ』(松

本幸四郎主演、一九八四年)を思い

出す人もいるかもしれません。原作

は山崎豊子の小説『二つの祖国』。

ロスアンゼルス在住の日系二世が、太平洋戦争によって、故国日本と生まれた国アメリカとに引き裂かれていく悲劇を描いた作品です。ロスアンゼルスの日系移民がクリーニンク屋を営んでいた場面が記憶に残っています。

お願い 須恵町からアメリカに移民した人たちについて、情報(写真を含む)をお持ちの人は教えてください。

炎上するサンフランシスコ市街(ウィキペディア「サンフランシスコ地震」より)

